

1. 駒と出会った人生

普通のサラリーマンが、宝石のような駒と出会う。ほしくなって注文するが…
初めて自作した駒が、中原名人 VS 加藤九段戦で使用される幸運
趣味からライフワークへ。会社公認で「駒づくりを楽しむ会」を創設

2. 日本文化としての我が国の将棋

- ・ 日本将棋の特徴
 - ・ 礼に始まり、礼に終わる
 - ・ 取った駒は再使用し、敵陣には入れば、強力な駒に出世する
 - ・ 駒は五角形の板ぎれに、2文字の漢字
- ・ 鎌倉時代頃駒、枚数が多い将棋が幾つも考案されている
 - 世界最大は「大局将棋(804枚)」、他に354枚、192枚、130枚、92枚の将棋
- ・ 「関が原の戦い」の前後に、53組の水無瀬駒を買った徳川家康
- ・ 羽織り袴姿のタイトル戦

3. 盤と駒

- ・ 盤は「榧」、駒は「黄楊(つげ)に限るべし」
- ・ 最古の駒は、奈良・旧興福寺境内跡から出た12世紀の駒
- ・ 最古の伝世品は、400年前の公卿が書いた「水無瀬駒」
- ・ 国宝の盤駒は、家光の娘・千代姫の輿入れ「初音の調度」
- ・ 駒の大きさに決りはない

4. タイトル戦に使われる駒

7大タイトルの頂点は「名人」
盤駒は関係者が用意し、対局者が決める
現代の高級品「盛上げ駒」は、江戸時代名駒のイミテーション

ポピュラーな彫り駒、天童駒は大衆品

5. 私にとっての駒づくりの効用

丹精こめて造る駒は、私の分身のようなもの
10倍に広がった交友

長続きの秘訣は楽しむ事
実益も大切

どんな事でも25年続ければ、学問になる
誰でも50年続ければ、その道の先頭に立てる

夢は、安土桃山時代の水無瀬兼成のように88歳まで駒づくりをすること

以上